

平成25年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

平成25年度重点課題

- 1 開かれた学校づくり
- 2 基礎学力の充実と応用力の育成
- 3 長所を伸ばし適性を引き出す教育の推進
- 4 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚
- 5 人権意識の高揚
- 6 環境教育の推進
- 7 防災教育の推進

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
1 開かれた学校づくり	①家庭・地域へ向け積極的に情報を発信する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	学校祭の日程については他の学校行事との関係や準備のタイミング、予備日の調整等多くの考慮事項があり、調整が難しいと思われるが、可能であれば保護者の体育祭観覧の要望も多いので休日に実施できるようにしていただきたい。 新しい校舎を汚さないよう配慮をしたり、外来者についても人物の確認を徹底しているようなので、引き続き安定した運営について努力していただきたい。
		①学校ホームページへのアクセス件数 70000件以上	①アクセス件数 約 147000 件(2013/4/ 1～2013/12/31)		
	②PTA総会・学年部会の参加率を増やす。	②PTA総会の参加率 36.2% 昨年 32.4% 3年対象進路別説明会 35.6% 昨年 35.6%	体験入学は参加者が減少しているが、アンケート結果から		
	③市高祭の入場者数 1000人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示の参加団体数を増やす。	③市高祭の入場者数 1180 名 昨年 862 名 ③アトラクション数 17 昨年 15 表現展示数 23 昨年 19 食品バザール数 8 昨年 8 ③体験入学参加者 1065 名 (中学生:986 保護者:79) 昨年 1129名 (中学生:1000 保護者:129)			
③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。	③体験入学の 500人以上を目指す。	活動計画	活動計画の実施状況		
1 市高祭の公開 2 体験入学の実施		①ホームページの更新を月に1回以上行う。	①更新回数 61回 (2012. 4.1～2013. 1.31)		①ホームページの更新を速やかにを行い、情報提供をできるようにしていきたい。 ② PTA 総会について今後も日程等を工夫して参加率を上げていきたい。 ③新校舎での市高祭もある程度要領等も分かり、落ち着いて取り組めるようになってきた。今後も企画運営等を改善し、より地域に親しまれる市高祭にしていきたい。 ③体験入学の参加者はやや減少している。新校舎効果も落ちついてきたと思われる。今後も市高の魅力を発信して広報に努力したい。 ③体験入学は毎年好評で、今後もアンケートを実施し、その結果を次回に反映するように努力したい。
		②PTA総会の日程を工夫したり、配布物による案内だけでなく、電話連絡をするなどきめ細かい情報提供・交換を行う。 ②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施する。	②PTA主催の学校教育活動の開催に際し、日程を見通し、工夫を行うと共に案内状を配布するだけでなく、ホームページに掲載するなど情報提供を行った。 ② PTA 家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より(1)平日の午後実施の希望が多く、(2)内容については、講演会への参加が最も多かった。		
		③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。	③ 生徒会役員を中心に市高祭ポスターを作成し、各中学校や高等学校へ案内した。また、地域住民には市高祭の案内の文書を、各家庭に生徒が配布するなど広報活動に		

		<p>③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。</p>	<p>努めた。 ③保護者からも50点の作品を展示する事ができた。 ③体験入学のポスターやチラシを事前に作成し関係中学校への広報活動にまわった。また、中学生が希望する授業を体験できるよう時間割を組んだ。アンケート調査からは、88%の中学生が体験授業が分かりやすかったと感じており、高校の授業の様子が分かり、進路決定の参考にしたという感想があった。</p>	<p>みて、本校への志望動機の1つとして期待できる成果が上がったと言える。</p>	
<p>2 基礎学力の充実と応用力の育成</p>	<p>①授業日数・授業時数の確保に努める。 ②わかりやすく、魅力ある授業に努める。 ③学習習慣の定着を図る。 ④補習への積極的な参加を促す。 ⑤校内実力テストを有効に活用するとともに、希望者受験の模試の積極的な受験を促す。 ⑥読書を薦める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①前年度並みの時間数を確保する。 ②(1年)「学習のかたち週間」を1・2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期初めに実施する。 ②教科会議を年3回以上開催、授業満足度70%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①ほぼ昨年並みの授業時数が確保できている。 2学期末までの授業時数 今年度 839 昨年度 821 一昨年度 816</p>	<p>総合評価 (評定) A</p>	<p>学力格差のある生徒に対して、評価の仕方を工夫し、点を取らせるような指導を継続してほしい。</p>
		<p>③家庭学習時間調査を定期考査前に実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やす。 ③毎月の生活記録表と長期休暇中の学習計画表を配布する。 ③自習室の活用を積極的に促し、年間利用者延べ人数を1万人を目指す。</p>	<p>②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施</p> <p>②教科会議 教科により差はあるが平均 5回開催 ②授業満足度 3学年平均 73.3% ②校内授業参観週間 1.2学期 1回ずつ実施</p>	<p>(所見) わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。 教科会議は、事務的なことに費やされることが多い。今後指導力向上に関する教科内での積極的な話し合いができるように見直していきたい。 生活記録を提出している生徒には、自らの学習状況を把握し振り返ることができており、学習意識の向上に役立っている。 家庭学習時間調査は担任の生徒の学習時間把握に役立ち、生徒においても自らの学習時間に対して意識するよい機会となっている。</p>	<p>授業満足度が70%という事だが、3割ほど不満足の見もあるので、要因を分析して次の指導に役立ててほしい。 自習室を休日にも開放しているのは、保護者としてはありがたい。教職員の負担も大きいと思うが続けて欲しい。 授業確保によく取り組まれているので、今後とも基礎学力を定着できるようにお願いしたい。</p>
		<p>③週末課題(日々の課題は含まない) 1年 英語 24回 数学 21回 国語 21回 2年 英語 16回 数学 16回 国語 17回 (2学期末現在)</p> <p>③家庭学習時間調査 4回実施 ③自習室のべ利用生徒数14,220人。</p>	<p>④補習皆勤者数 1年136人(42.5%)2年93人(29.0%) (12月末現在) ④3年生補習申込者に対する受講率 約50%</p>		
		<p>④(1,2年)全員参加補習の皆勤者数100人以上を目指す。 ④(3年)総受講率においてほとんどの者が参加することを目指す。</p>	<p>⑤オプション模試受験者数(延べ人数) 1年 395名 2年 377名 3年 1764名</p>		
		<p>⑤希望者受験模試の受験者数(延べ人数)は下記のような目標とする。 (1,2年) 300人以上 (3年) 1000人以上</p>	<p>⑥読書の宿題 1年 読書感想文 - 全員提出 世界史レポート - 全員提出 2年 読書感想文(読書レポート) - 全員提出</p>		
		<p>⑥(1年)夏休みの読書の宿題を全員提出する。</p>	<p>⑥図書館便り 8回発行</p>		
		<p>⑥図書館便りを年4回発行する。</p>			
		<p>活動計画</p> <p>①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。</p>	<p>特設コーナーを設け探しまわらなくてもすぐ手に取る事ができるようにし、ポップで内容紹介文もつけた。</p>	

	始める。				
	②学期の最初の1週間で、各学年とも「学習のかたち週間」とし、英数国を中心に各教科で実施する。予習・復習・ノートの取り方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。 ②教師一人ひとりが授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。 ②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。 ②同時に校外の研修会に出向く方法も検討する。	②1,2年生生徒対象進路講演会、職員対象進路研修会を実施し、進学への心構えや取り組み方、進路指導技術について学んだ。 ②アンケートによると、91.4%の教員が授業に対して、創意工夫している。 ②校内授業参観週間では、自分の専門教科を最低1回は参観し、参観カードを必ず提出するようにした。 ②研修会への参加教員からはレポートを提出してもらい、教科内で共有した。			
	③週末課題・日々の課題で学習の習慣化を図る。 ③家庭学習時間調査の期間を学習強化週間として学習習慣の定着を促進する。 ③集会・面談等において家庭学習時間の確保と重要性を指導し、生活記録に記すことで学習計画を立てる習慣をつける。 ③生徒が集中して学習に取り組める環境を確保する。	③週末課題・日々の課題は必要に応じ出されている。 ③家庭学習時間調査は学習強化週間に行い担任からの声かけに生かしている。 ③各HR担任は生徒から提出された「生活記録」にコメントを書いたり、日々の声かけや面談時に生活記録の内容に言及することで生活の改善を促している。 ③自習室開放を平日8:30～19:00、休日8:30～16:30にほぼ年間を通じて実施している。1月末で292日開放、のべ利用生徒数14,220人。			
	④担任による生徒への出席の督促と保護者の協力により欠席者を減らす。 ④(3年)担任指導により欠席者への受講を促す。	④電話連絡・三者面談等の機会を通じて補習への出席を督促している。			
	⑤実力テストごとに出席検討委員会を開く。 ⑤各模試の目的・意義を伝える。 ⑤成績の分析を今後の学習指導に役立てる。	⑤各HR担任が個人面談等を通して校内実力テスト・校外模試の目的・意義を伝え、学習意欲の高揚をはかるように指導している。 ⑤校内実力テスト・校外模試の結果は学年・教科で共有し、平素の指導に役立てている。			
	⑥夏休みの宿題として、以下のものを提出させることで正確に読みの確に表現する力を向上させる。 (1年夏休み) 読書感想文・世界史レポート ⑥図書館便りで新着図書や推薦図書の案内を行うとともに、各教科からも案内を行う。	⑥1年は読書感想文と世界史のレポート、2年は読書感想文または読書レポートを実施し全員提出した。			

3 長所を伸ばし適性を引き出す教育の推進	①部活動の活性化に努める。 ②生徒一人ひとりの進路希望の実現に努める。	評価指数	評価指標の達成度	総合評価 (評価)	部活動は学習活動と並ぶ重要な教育活動であるので、進路保障も含めしっかり継続して行ってほしい。 生徒数の減少が叫ばれる中、市内中心部に位置する本校は部活動を行っていく上でも有利な状況にあるので、更に力を入れて行ってほしい。	①部活動加入率は目標値を達成しているが、1年の加入率が減少してきている。より意欲的に部活動ができるように生徒をサポートしていきたい。 ②難関大の現役合格者数の目標値には達していないが、生徒の志望を叶えられるようにしていきたい。
		①部活動加入率 80%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。	①部活動加入率 1年 78.0% 2年 97.0% 3年 83.0% ①四国大会以上の出場部数 四国大会 16部 全国大会 10部	B (所見) 部活動が活発に行われており、生徒の満足度は高いと思われる。さらなる充実感が得られるような		
	②生徒進路についての検討会(進路対策会議)を下記の回数実施する。 (1,2年)年間 2回 (3年)年間 5回	②進路対策会議 1年 2回 2年 2回 3年 4回				

	<p>②生徒・保護者・担任の三者面談を年間 2回確保する。</p> <p>②生徒と担任の二者面談週間を年間 3回実施する。</p> <p>②難関大（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大 医学部医学科・早稲田・慶応）の現役合格者数50人以上を目標とする。</p> <p>②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度 70%以上を目指す。</p>	<p>② 3者面談 1年 2回 2年 2回 3年 3回</p> <p>② 2者面談週間 1年 2回 2年 2回 3年 2回 その他三者、二者面談とも各HRで必要に応じて行った。</p> <p>②IRP活動の生徒満足度 60.9 %</p>	<p>指導の取り組みが求められる。</p> <p>市高レインボウプランにおいては、高大連携教育あるいはキャリア教育の観点からも、生徒が自ら考え、行動できるように援助できるようにする必要がある。</p>	<p>IRP 活動の満足度が下がっているようなので、より積極的に取り組んでほしい。</p>	<p>②市高卒業生などのネットワークをもとに各大学、職場と連携することによって高大連携教育やキャリア教育を進展させる必要性がある。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会で指導する。</p> <p>①部活動紹介・壮行会・表彰伝達式で意識の高揚を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。</p> <p>①総体・四国総体・インターハイ・国体壮行式を実施した。表彰伝達式を 8回実施した。</p>	<p>②学外の社会施設や大学などに直接出向き説明をうけるなど体験的な講座を設け、また、学内に講師を招聘し、講座を複数回受講した。さらに、社会で活躍する卒業生を招き、現在の仕事や高校との接合など具体的な体験談を聞く機会をもった。また、これらの経験を年度末に各グループ、クラス単位で報告するIRP発表会を持ち、体験の共有化をはかった。</p>		
<p>4 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚</p>	<p>①集団生活におけるルールを遵守させ、マナーの向上を図る。</p> <p>②遅刻防止の指導の充実を図る。</p>	<p>評価指数</p> <p>①登校指導、校内巡視指導（昼休み）を毎日行う。</p> <p>①生活指導の集会を年 5回以上実施する。</p> <p>①街頭交通指導を年 20回以上実施する。</p> <p>②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に 1回以上実施する。</p> <p>②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①登校指導及び昼休みの校内巡視指導を毎日実施した。</p> <p>①生活指導の集会 全校集会 4回実施 学年集会 1年 6回 2年 6回 3年 10回</p> <p>①街頭交通指導 交通マナーアップ運動 10回実施 学校安全の日 10回実施</p> <p>②遅刻指導強化週間 1年 1回 2年 1回 3年 1回</p> <p>②年間遅刻者数（1日あたりの遅刻者数、2学期末現在） 今年度 10.0人 昨年度 12.3人</p>	<p>総合評価 (評定) A (所見) 遅刻者数が昨年に比べ減少してきている。しかし、特定の生徒の遅刻が目立つ状況があり、それらの生徒に対しての生活習慣の指導を徹底する必要がある。 昨年度より、指定セーターを導入することで、防寒着に対する指導が徹底しやすくなり、制服の着こなしのマナーが向上してきた。</p>	<p>遅刻者数の目標を達成しているが、特定の生徒が遅刻し、早朝補習にも出席できていないようなので指導を継続してほしい。</p> <p>挨拶運動については生徒会を中心として定期的に行っているようなので、今後も継続してほしい。</p> <p>郡部の学校に比べると、自主的に挨拶をする生徒が少ないようであるが、主体的に取り組む生徒が増えれば現状も変わると思う。</p> <p>①挨拶運動は、本年度同様に生徒会を中心に取り組み。</p> <p>①交通事故防止や交通マナーの向上に向けて、より徹底した指導を行う。</p> <p>①冬期の制服の着こなしが改善されてきたので、夏期についても生徒の着こなしマナーの向上を目指すと同時に、シャツのデザイン等で改善できればと思う。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①年間計画に基づいて指導にあたる。</p> <p>①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。</p> <p>①学年集会、全校集会で指導する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①生徒指導年間計画に基づいて適切に指導にあたった。</p> <p>①生徒を主体とする挨拶運動は、生徒会・交通委員とともに達成できた。</p> <p>①集会における指導は、問題行動を防ぐことができるような内容とし、生徒の健全育成に努めた。</p>			

		①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日に街頭指導をする。	①毎月10日の交通マナーアップ運動は、職員・生徒が警察署・地域の交通安全協会の方と共に街頭に立ち指導した。毎月20日の学校安全の日は、職員で街頭指導した。年度や学期の始めは、連続した街頭指導を行っている。			
		②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。	②遅刻理由を把握し、適切な遅刻指導が行えた。各学年において遅刻指導を実施した。			
5 人権意識の高揚	①人権ホームルーム活動の充実を図る。 ②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。 ③人権教育職員研修会の充実。	評価指数	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 担任はホームルームの先行授業や指導案を参考にしながら、クラスの実態に即した指導をし、人権ホームルームの充実を図った。今後は、人権問題に対して生徒同士の自発的な学びが行われるよう、人権委員会を中心にサポートしていきたい。 人権委員会の活動も年間を通して活発に行えた。人権新聞や人権展など、授業以外で人権を考える場となった。 人権教育職員研修は、年4回実施できたが、多様な人権問題に対する教職員の要望に応えられるように、研修のあり方をさらに工夫していく必要がある。	PTA を巻き込み、熱心に活動されていると思う。 不登校生の指導については教職員の共通理解と進路保障を重点的に、今後も組織的な対応をお願いしたい。	①人権委員のホームルームでの活動をより支援できるようにしていき、生徒同士の自発的な学びができるように工夫していきたい。 ②人権新聞に、生徒の率直な意見を掲載し、生徒間で話題となるような記事を提供していきたい。 ③教職員人権研修のテーマを学校の現状と照らし合わせ、より実践的で現場に生かせる内容にしていきたい。
		①担任会で人権ホームルーム活動の事前・事後研修を実施する。 1年生…6回、2年生…6回、3年生…5回 ①各学年で先行授業(研究授業を含む)を実施する。 1年生…2回、2年生…3回、3年生…1回	①事前研修 1年生…6回、2年生…6回、3年生…5回 事後研修 1年生…2回、2年生…3回、3年生…1回 ①先行授業 1年生…2回、2年生…3回、3年生…1回			
		②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②「市高人権新聞」を各学期に2回以上発行する。 ②市高祭で「人権展」を開催する。 ②「人権啓発作品展」を実施する。	②事前研修 1年生…4回、2年生…6回、3年生…2回 ②年間7回発行 ②「人権についていつ考えるの？今でしょ！」～私たち高校生が考える～と題し実施 ②「人権啓発作品展」を実施した。			
		③校外研修を実施する。 ③PTA 啓発(研修)を実施する。 ③教員研修を実施する。	③PTA 研修を兼ね京都大学を訪ね校外研修を実施した。 ③年間2回実施 ③教員研修を年4回実施した。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。 ①先行授業の結果を共有する。	①1年生では、身の回りの差別を中心に指導を行った。2年生では、アイヌから始め、近代・現代の歴史を学習した。3年生は企業・就職・結婚を中心に指導を行った。 ①担任の先生方に、先行授業を見てもらった後、授業感想用紙による振り返りを行った。			
		②各学年ごとに事前学習を行う。 ②人権ホームルーム記録用紙を作成する。	②1年生では、全体学習の実施や、2時間続けての実施となったため、実際の回数より事前学習が少なくなっている。 ②全学年とも、人権ホームルームの記録用紙を各クラスの人権委員が活動当日、または翌日に記録用紙を作成し、提出できた。 ②各クラスの人権委員は担当月の人権新聞に真摯に取り組めた。 ②人権展のための調べ学習やレポート作成を、多くの人権委員が積極的に行うことができた。「人権についていつ考えるの？今でしょ！」～私たち高校生が考える～と題し、「高齢者問題」「アイヌ」「医療」「刑を終えて出所した人」など、各クラスで様々な種類の展示を行った。			
		②各HRの人権委員が年間1回は必ず原稿作成を行う。 ②1,2年生の人権展での学年ごとのテーマを決め、調べ学習を行う。 ②人権啓発のためのポスターや書道作品を作成する。	②1年生の書道・美術選択者中心に作成を行った。			
		③人権教育職員研修会を各学期ごとに実施する。	③5月「学びは生きる力-国連識字の10年を終えて-」講演、7月「認知的個性を活かした学習支援」講演、10月「子ども			

			もを信じること-親子のコミュニケーションと子どもの生きる力-」講演，1学期に2回，2学期に1回ずつ実施し，3学期は1,2年生の人権意見発表会に参加。		
6 環境教育の推進	①資源の有効利用や環境負荷の軽減，環境保全など，地球にやさしい学校作りに積極的に取り組む。	評価指数 ①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別，減量化に努める。 ①リデュース，リユース，リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を毎月1回実施する。 ①学校周辺地域清掃活動を年間2回以上実施する。	評価指標の達成度 ①校内美化活動 15回実施 ①学校周辺地域の清掃活動 10回実施	総合評価 (評価) A	設備の良さは市高の大きな魅力の一つであるので，今後も美化運動を推進して行ってほしい。 雑草の処理と校舎外の時計のずれを改善できるように努めてほしい。
		活動計画 ①毎月の電力，水道使用量を調べ，昨年同期との比較を行い，結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り，注意を促し，使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトル，紙パックの分別回収，家庭の廃油回収をおこない，印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け，全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で，環境美化や省エネについて，全校生徒に呼びかける。	活動計画の実施状況 ①毎月の使用電気量及び電気代を調べ，過去2年間と比較したものをグラフにして掲示する事により，より一層節電意識を高めていった。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をノートにチェックし，そのたびに注意勧告を行う事により，分別状況が改善されるようになった。 ①環境美化に関するポスターや標語の作成を行った。 ①社団法人徳島新聞社主催の「今日から始めるエコプロジェクト」の標語募集に参加した。 ①ペットボトル，紙パックの分別回収，家庭用廃油回収を行ったり，職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①学期初めに委員長が校内放送を通して節電について話したり，環境委員による月1回の校外美化活動を実施した。 ①県が推進する「530の日～ゴミゼロの日～」活動に参加し，地域周辺の清掃活動に参加した。	(所見) 「新学校版環境ISO」に参加申し込みを行い，「環境目標」，「行動方針・実施方法」，「役割分担・組織」などを掲示し，また環境委員を中心に省エネについて各クラスで呼びかけを行うなど，活発な活動を行う事ができたが，使用電気量は昨年と比較すると増えたことが残念である。 校内美化・ゴミの分別に対する意識は年々向上してきており，今後も継続的に啓発活動に取り組みたい。	①環境委員の活動は活発に行われているのだが，一部の生徒はそのような活動にあまり関心がないように思われる。 ①省エネについての関心をより高め，今年度増加した使用電気量を減らせることができるような啓発やアイデアを探りながら活動していきたい。
7 防災教育の推進	①防災意識を高め，災害時に自らの命を守り，落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。	評価指数 ①防災について関心の高い生徒の割合を80%以上にする。	評価指標の達成度 ①学校の防災教育において，防災の意識の高まった生徒の割合 55.5%	総合評価 (評価) B	市高は立地的に見ても，校内設備の面からも防災教育の必要性の高い学校なので，意識を高められるよう努力してほしい。
		活動計画 ①年2回防災訓練を実施する。 ②授業を通して，自然災害についての理解を深め，防災意識の向上に努める。	活動計画の実施状況 ①1,2学期にそれぞれ防災訓練を1回ずつ(計2回)実施。 ②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。	(所見) 年2回の防災訓練を充実したものにし，防災意識を向上させ，自分はもちろん身の周りの人の生命を守るために日頃どのような準備・心づもりすべきかの啓発活動を工夫していく必要がある。	①防災についてのクラブが無く，JRCの活動を伝えてもらったりはしているのが現状ではあるが，中学校時代に防災について深く考え学んできた生徒が入学してきているので，その生徒たちを中核にして活動を広げていければと思う。